
福島第一原子力発電所 2, 3号機海水配管トレンチ
止水・内部充填の進捗について

平成27年1月19日

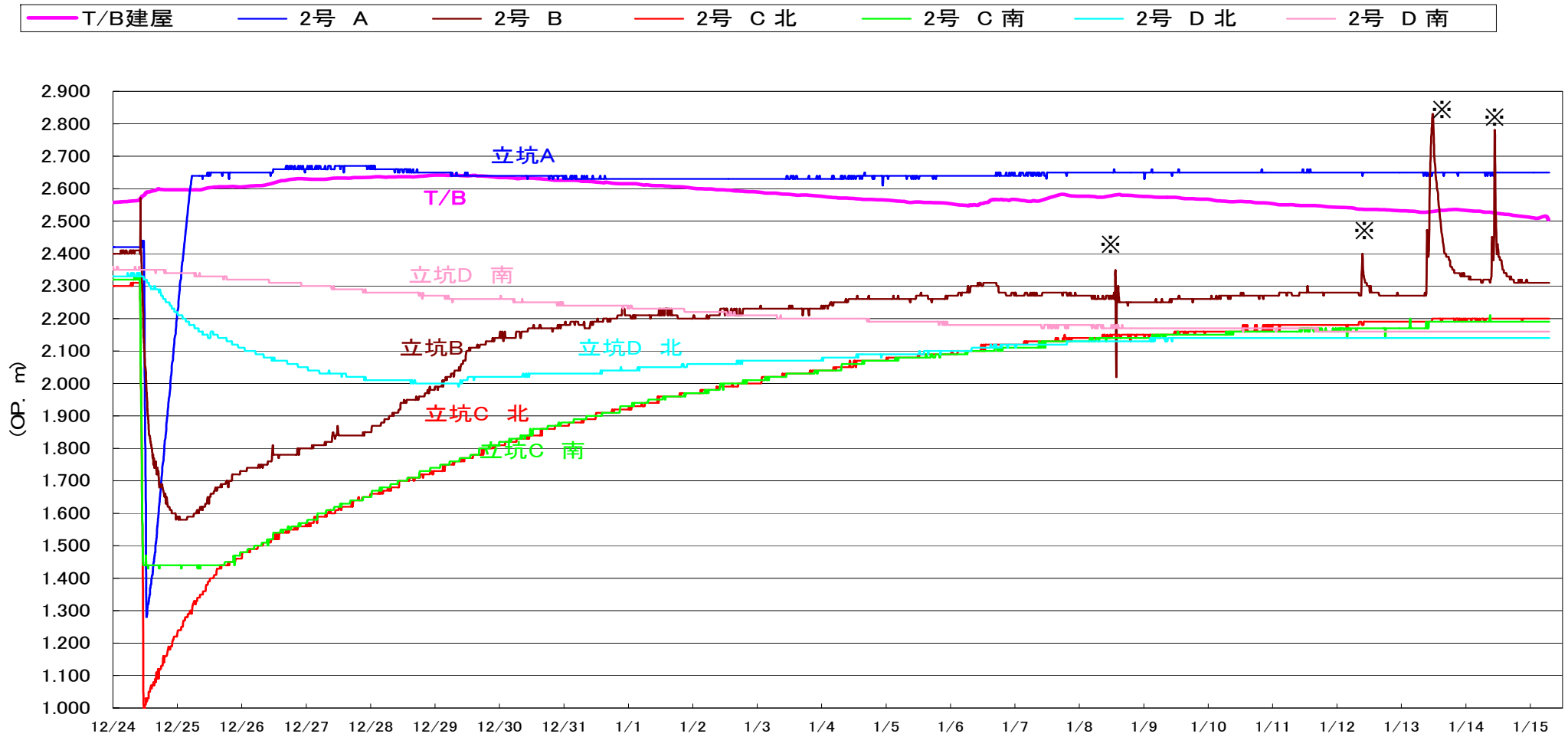
東京電力株式会社

2号機海水配管トレンチ 揚水試験(1回目)後の水位状況について

- 立坑B・C・Dは水位はO.P.+2.1~2.2mに収束しつつある状況。
- 立坑Aと立坑Bの水位差がついたまま、立坑Bの水位上昇が収束。
→トンネルAの連通は非常に小さい可能性

2号トレンチ各立坑水位経時グラフ

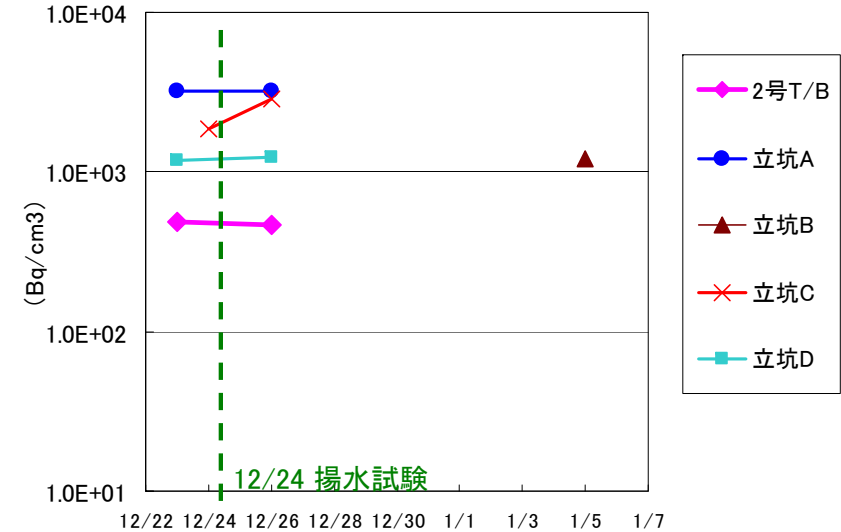
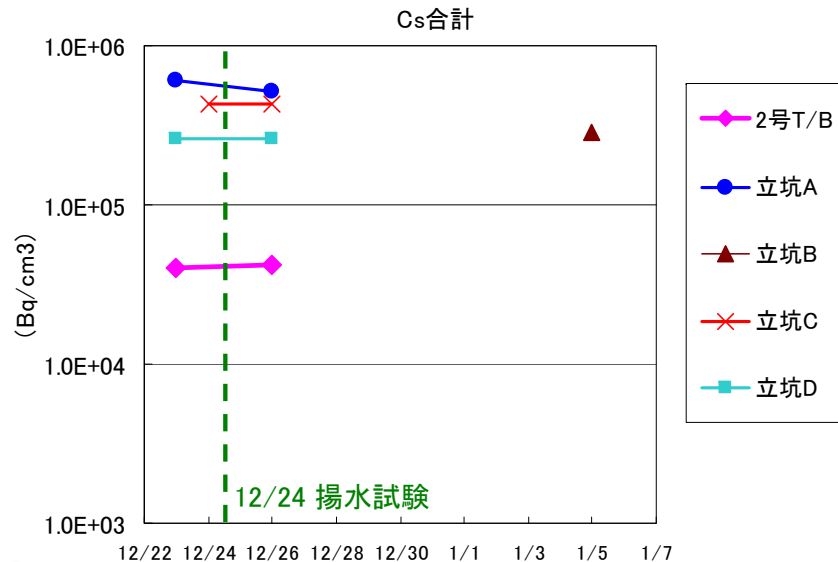
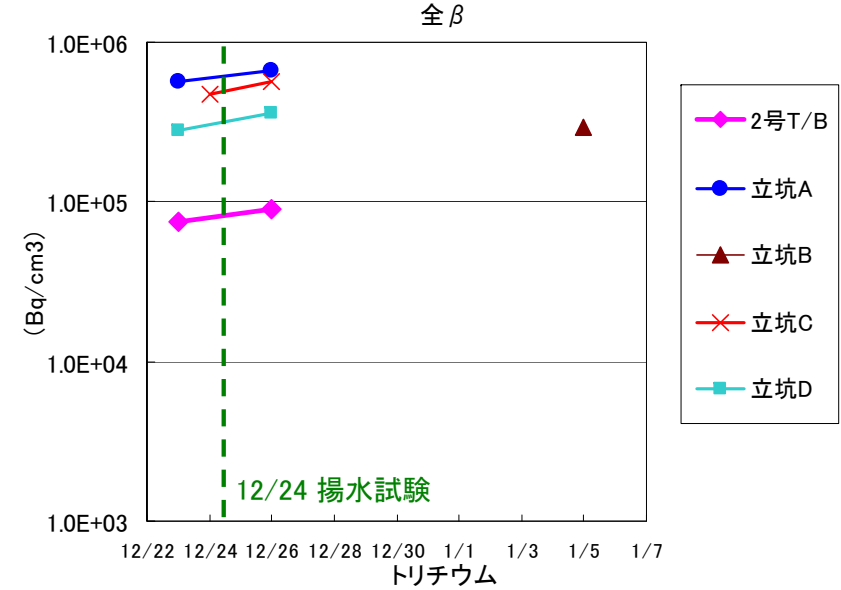
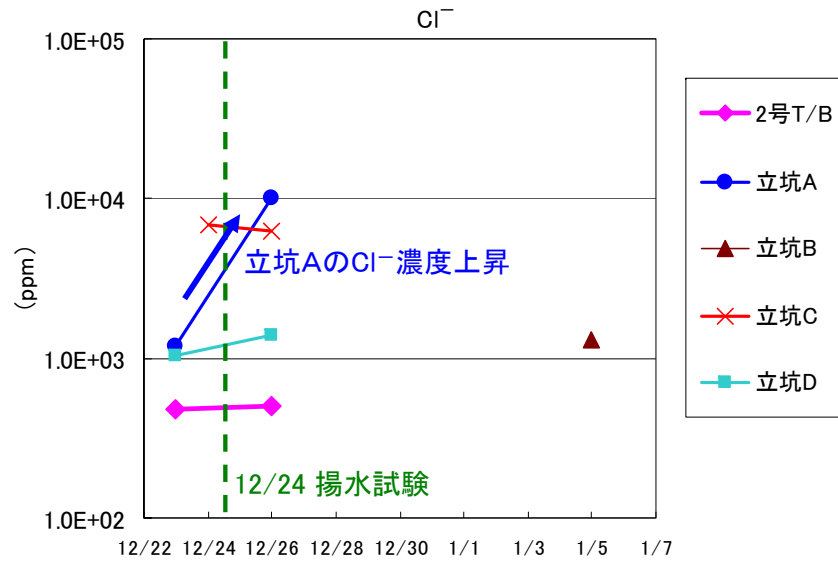
2015.1.13 測量結果に基づきデータを補正



※削孔に伴う注水及びコア回収のため、一時的に水位が変化

2号機海水配管トレンチ 揚水試験(1回目)後の水質状況について

- 揚水試験前後の水質を比較した結果、立坑A、C、Dはほぼ同等。よって、地下水流入の可能性は低いと考えられる。
- なお、立坑Aにおいて塩化物イオンが上昇した理由は、閉塞材料の打設時に立坑Aからアルカリ中和剤を投入しており、その影響と推察。



2号機海水配管トレンチ 揚水試験(2回目)について

(1) 目的

1回目の揚水試験(H26.12.24)の結果を踏まえ、改めてトンネルAの連通性を確認する。

(2) 実施日時

平成27年 1月20日(火)

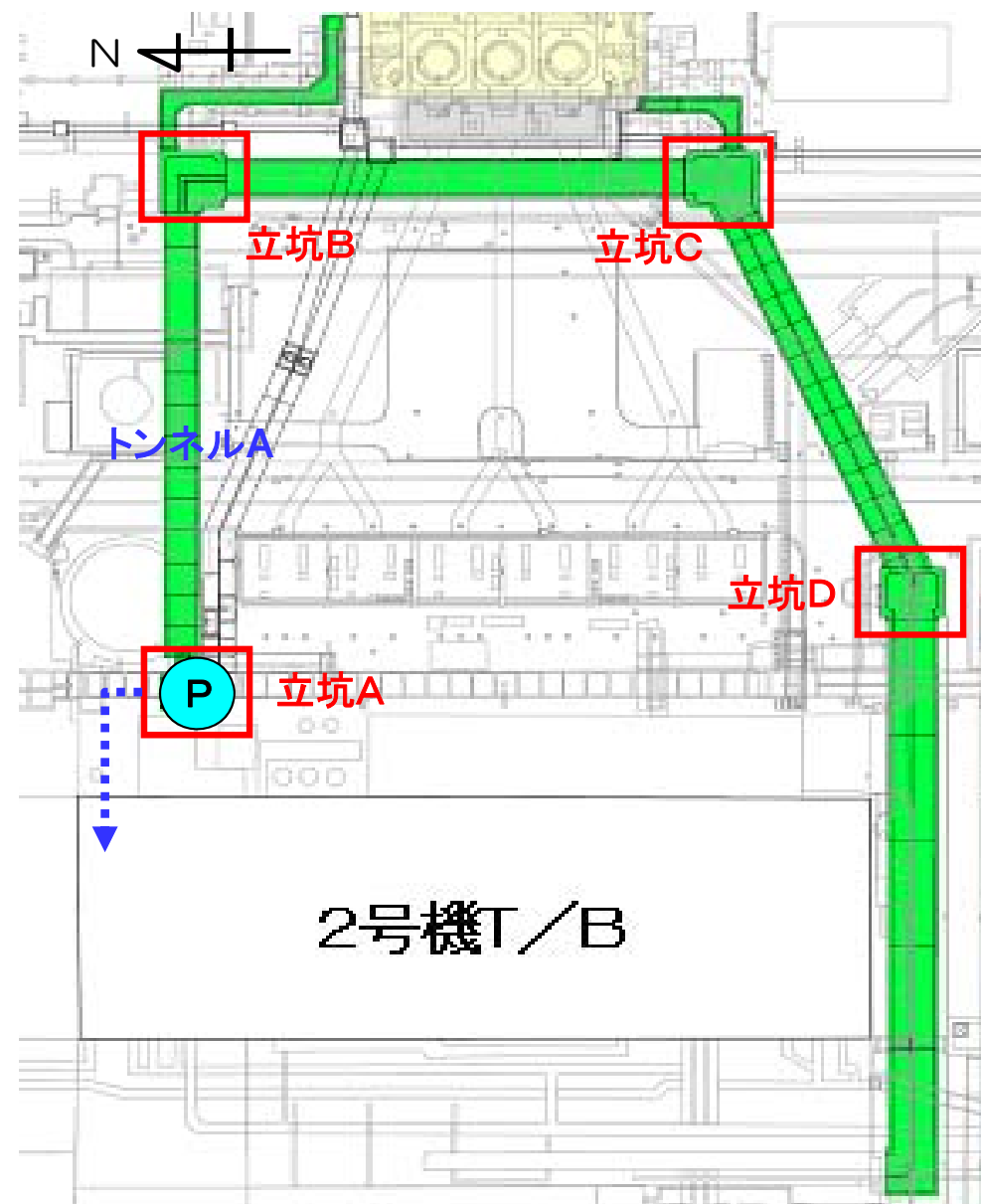
(3) 実施方法

○2号立坑Aよりポンプアップ(30m³/h)

- ・揚水量: 約30m³/h × 1時間※
- ・立坑A水位低下見込み: 約1.0m

(4) 評価方法

立坑Aからの揚水により、立坑Aと立坑Bの水位差が生じる。この間の立坑Bの水位変化量によりトンネルAの連通量の評価を行う。



※ 1回目の水位変化との比較、T/B建屋と立坑Aの連通状態の維持、等を考慮し、1回目の揚水試験時の立坑Aの揚水量と同量とする。

3号機海水配管トレンチ トンネル部の充填計画について

- 1月20日までにトンネル充填開始に必要な充填孔・観測孔・ポンプ孔の設置が完了予定。
- 設置が完了次第、1月21日からトンネル部の充填を開始予定。
- 充填開始当初は、トレンチ内滞留水の塩分濃度等の関係から、約100m³/日程度を打設。
- 充填に際しては、2号機と同様の水位管理を行う。

3号機海水配管トレンチ トンネル部充填施工中の水位管理について

➤ 運転上の制限（保安規定）であるO.P.+3.5mを超えないように下記の通りの施工サイクル及び水位管理を行う。

- ① 充填開始前までにトレンチ水位を、O.P.+2.8m以下を目安に低下させる。
- ② 充填中（8:00～12:00予定）は、トレンチ水位を監視（30分毎）し、O.P.+3.0mを超え、その後、水位上昇が継続し、O.P.+3.25mを超える恐れのある場合、トレンチ移送ポンプを起動させ、トレンチ水位の低下を図る。
- ③ ②に引き続きトレンチ水位が上昇し、O.P.+3.25mに達した場合は、即時、充填を中断する。

